

# 大館ドーム構造材用 秋田杉大断面集成材を生産

## 『秋田グルーラム』 設立

七年度からの建設が予定されている大館ドーム。その構造材となる秋田杉大断面集成材の生産・供給を担う新会社、秋田グルーラム株式会社(代表取締役・関重征氏)が、十月三日に設立されました。同社はドーム竣工後も継続して操業する方針を打ち出しており、将来、大断面集成材のメーカーとして国内最大規模となる見込みです。そのため同社の設立は、本市の木材資源の高付加価値化を実現する、新たな産業の誕生として期待を集めています。

### 全国初の

### 秋田杉大断面集成材工場

秋田グルーラム株式会社は、県内六社、県外一社と個人(関氏)が、計七千万円を共同出資して設立したものです。社名の「グルーラム」は「大断面集成材」を意味します。同社は、九年度のオープンを目指して来年度からいよいよ建設が始まる大館ドームの構造材となる、秋田杉の大断面集成材を生産する会社として誕生しました。市としては、同社を誘致企業として扱う予定であり、会社の所在地は大館市花岡町字七ツ館(花岡第二工業団地計画地内)となっています。

来春から工場の建設に着手し、六月の操業開始を目指しています。また、従業員(十八人程度)はすべて大館市内からの新規採用を予定しています。

集成材というのは板状の木材を接着剤で張り合わせたもの。そのうち大断面と呼ばれるのは、厚さ十五センチ以上、幅二十五センチ以上のものを指し、そのほとんどは、特に強度が要求される建造物

の構造材に使用されています。大断面集成材の工場は、従来、県内にもありませんでしたが、秋田杉を使った大断面集成材の工場は全国でも初の設立となります。



『秋田グルーラム株式会社』工場完成予定図

### 大館ドームへの 構造材供給体制を確立

完成すれば世界最大の木造建築物となる「大館ドーム」は、設計段階で構造材に秋田杉を使用することが決定されており、建設に当たっては大量の秋田杉大断面集成材が必要とされます。ところが、

大断面集成材加工技術を持つ企業は市内にはまだなく、ドーム建設の波及効果として、木材加工技術の向上や、秋田杉を活用した新たな産業の創出が期待されています。輸送手段やコストの面を考慮しても、地元での秋田杉大断面集成材の供給体制確立が急がれていたところですが、今回の新会社設立により、ドームへの構造材供給体制の問題は解決できそうです。同社では、当面年間千三百立方メートルの秋田杉大断面集成材を生産する計画で、大館ドームの構造材に使用する秋田杉大断面集成材約五千立方メートルの約半分は、同社が供給することになります。

### 秋田杉活用の幅が 広がります

市では現在、秋田杉林の間伐に対する助成や、建設時に乾燥秋田杉材を使用する住宅への助成を行っています。さらに今年度からは、首都圏で住宅の建築に用いる秋田杉を産地大館で採寸・カット(プレカット)、現場に直送して組み上げる方式の「産地直送住宅」への助成事業も行っています。秋田杉の育成から需要の拡大まで、その有効活用の促進を図って一連の事業を行っているのですが、従来、天然杉は希少で高価なこと、造林杉は外材などに比べて強度が低いことがいわれ、比較的大規模な建造物の構造材としての活用が困難

とされてきました。しかし、集成材加工によってこうしたイメージからも脱却できそうです。活用の幅が大きく広がりますから、有効活用促進の流れにも弾みが付きま

### 将来は国内最大規模の 大断面集成材工場に

秋田杉大断面集成材は今後、学校、体育館、高層木造住宅や産地直送住宅、橋梁など多方面に渡って需要の伸びが見込まれます。そのため同社では、九年度に予定されているドーム竣工後も操業を継続し、各種建造物での秋田杉需要の掘り起こしを図りながら、将来は年間生産量を三千五百立方メートルにまで引き上げる計画です。これが実現すれば、同社は国内最大規模の大断面集成材メーカーになります。

林業の低迷がいわれる今日、従来の林業構造の中で、地元の木材資源の高付加価値化が図れることは大きなメリットです。工場の建設が花岡第二工業団地計画地内に予定されていることは、鉾山の閉山で沈滞ムードの花岡地区に活力を与えてくれそうです。このように、秋田グルーラム株式会社の設立は様々な分野に好影響を及ぼすものと予想され、「木都大館」復活の軸となる新たな産業の誕生として、大きな期待が寄せられています。